

# 平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書

【概要版】

平成21年6月

公立大学法人岩手県立大学

# 1 大学の概要

(1) 法人名 公立大学法人岩手県立大学

(2) 所在地 岩手県岩手郡滝沢村

(3) 役員の状況

理事長	相澤	徹
副理事長	谷口	誠(学長)
理事	佐々木	民夫(副学長/学務担当)
理事	幸丸	政明(副学長/教務担当)
理事	伊藤	憲三(副学長/学術研究担当)
理事	古澤	真作(事務局長)
理事(非常勤)	有賀	貞一((株)CSKホールディングス代表取締役)
理事(非常勤)	工藤	洋子((株)ジョイス監査役会事務局長)
監事(非常勤)	伊藤	孝次郎(財団法人岩手経済研究所副理事長)
監事(非常勤)	村野	栄司(村野栄司税理士事務所)

(4) 学部等の構成

ア 岩手県立大学	学部	看護学部 社会福祉学部 ソフトウェア情報学部 総合政策学部
	大学院	看護学研究科(博士前期・後期課程) 社会福祉学研究科(博士前期・後期課程) ソフトウェア情報学研究科(博士前期・後期課程) 総合政策研究科(博士前期・後期課程)

イ 岩手県立大学盛岡短期大学部

ウ 岩手県立大学宮古短期大学部

(5) 学生数及び教職員数

ア 学生数

(ア) 岩手県立大学

学部	看護学部	383名
	社会福祉学部	415名
	ソフトウェア情報学部	704名
	総合政策学部	451名
	(学部計)	953名
大学院	看護学研究科/博士前期課程	19名
	博士後期課程	16名
	社会福祉学研究科/博士前期課程	28名
	/博士後期課程	8名
	ソフトウェア情報学研究科/博士前期課程	57名
	博士後期課程	22名
	総合政策研究科/博士前期課程	12名
	博士後期課程	10名

(大学院計) 172名

合計 2,125名

(イ) 岩手県立大学盛岡短期大学部

216名

(ウ) 岩手県立大学宮古短期大学部

215名

総計 2,556名

イ 教員数

(ア) 岩手県立大学

学長	1名	
看護学部・研究科	49名	
社会福祉学部・研究科	42名	
ソフトウェア情報学部・研究科	57名	
総合政策学部・研究科	39名	
共通教育センター	15名	
その他	12名	合計 215名

(イ) 岩手県立大学盛岡短期大学部

26名

(ウ) 岩手県立大学宮古短期大学部

18名

総計 259名

ウ 事務局職員数

職員	54名(うち宮古短期大学部 8名)
任期付職員	26名( " -名)
非常勤職員	6名( " 2名)
県再任用	2名( " -名)
計	88名( " 10名)

(6) 大学の特徴等

ア 沿革

岩手県立大学は、「共に支え、共に生きる、人間性豊かな社会」の形成に寄与するため、深い教養を身につけ、高度な専門知識を修得した自律的な人間の育成を目指し、看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部及び総合政策学部の4学部による岩手県立大学に、県立短期大学として歴史と伝統を有する盛岡短期大学と宮古短期大学を再編・併設のうえ、平成10年4月に開学しました。

平成11年12月には大学院設置認可を得て、順次大学院を整備し、平成16年度に現在の4学部4研究科、2短期大学部の体制が完成しているところです。

この間、平成14年3月からは新設大学(4大)としての卒業生を社会に送り出しながら、大学改革を推進するため、平成15年11月にアクションプランを策定しましたが、その着実な推進のため、平成17年度に公立大学法人化したところです。本事業年度に開学10周年を迎えたことから、各種記念事業の展開を通して、本学の新たなステージにおけるビジョンの実現を目指して大学運営を行っています。

イ 建学の理念と中期目標・中期計画

岩手県立大学は、「自然、科学、人間が調和した新しい時代の創造を願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す」との建学の理念の下、豊かな教養の修得と人間尊重の精神の涵養、学際的領域を重視した特色ある教育・研究、実学・実践重視の教育・研究、地域社会への貢献、国際社会への貢献の5つの基本的方向により、開学以来の大学づくりを進めています。

中期目標では、大学を取り巻く様々な環境の急速な変化に対応し、公立大学法人への移行を機に大学運営の自律性をさらに確立し、教育・研究の一層の質的向上を図るため、この基本的方向を発展させながら、「実学実践」の教育・研究を通して地域に貢献する大学、志に火をつける「実学実践」の教育による人間的成長を培う大学、「実学実践」を中核とした「人間教育」、「実証研究」、「地域貢献」の一体的な進展を目指していくことが提示され、本学は、この目標を達成するための中期計画を策定し、各般にわたる活動に取り組んでいます。

## 2 全体的な状況とその自己評価

本項では、平成20年度計画にあらかじめ提示した全体計画について「(1)平成20年度計画において全体計画として定めた事項」としてその取り組み状況を自己点検・評価したうえで、「(2)全体評価に規定する事項」として公立大学法人岩手県立大学に係る各事業年度業務実績評価実施要領に定められた全体評価の項目に係る実施状況を記述しています。なお、詳細計画については別添のとおりですが、「(3)全体的な計画の進行状況」として年度計画項目に係る実施状況を概括しています。

### (1)平成20年度において全体計画として定めた事項

平成20年度は、岩手県立大学が開学10周年を迎えるとともに、中期計画の後半3年間の初年度にあること、本学の教育研究活動について認証評価を受審することから、新たなステージにステップアップする年度と位置づけ、開学10周年記念事業を展開するとともに、次期中期計画の策定をも視野にいれつつ、中期目標の達成に向け、人材の育成を柱とした地域貢献の推進、大学の知的資源を活用した地域貢献の推進、少子化時代の学生確保、学生満足度の向上、部局を超えた連携強化に重点をおいて取り組みました。

なお、平成20年度の認証評価において本学は、財団法人大学基準協会が定める大学基準に適合されていると認定されました。

#### 人材の育成を柱とした地域貢献の推進

県立大学として、豊かな教養と個性・独創性を有する人材を養成することにより地域に貢献していくため、グローバルな視野を涵養しながら、教養教育の強化と専門教育の充実により人材を育成するとともに、その県内定着を促進する取り組みを展開しました。また、各種の教育プログラムを実施することにより、社会人に対するリカレント教育を推進しました。

#### 【グローバルな視野の涵養】

- ・ 教養教育における国際的視野の修得を目指した科目の新設
- ・ 海外研究者等を招聘した国際ソフトウェア・シンポジウムやアジア地域開発・環境フォーラムの開催による研究者の交流
- ・ 国際交流協定締結校である大連交通大学及び韓国又松大学校からの計7名の特別聴講学生の受入れ
- ・ 単位認定制度を設けた短期海外語学研修の制度化と岩手県立大学後援会による経費助成制度の設置 など

#### 【教養教育の強化】

- ・ 学部・短期大学部間の教員の相互連携による内部講師やJICA職員、食の匠など学外ゲストスピーカーの活用による教養教育に関する多様な授業科目の提供
- ・ 英語科目におけるブレースメントテストによる習熟度別少人数クラス編成の仕組みの整備 など

#### 【専門教育の充実】

- ・ 看護学部における編入学生への「看護学序論」の必修化などによる専門教育への導入の強化
- ・ 社会福祉学部における教育群制の柔軟な運用、平成21年度のカリキュラムの改

訂を申請・認可

- ・ ソフトウェア情報学部における授業情報共有システムの試用開始
- ・ 総合政策学部におけるキャリア教育関連科目として「地場産業・企業研究」の自由聴講科目から選択科目への移行
- ・ 盛岡短期大学部における住居系カリキュラムの改訂
- ・ 宮古短期大学部における2年次の「特別研究」と連携する1年次後期ゼミ「基礎研究」の新設 など

#### 【人材の県内定着を促進する取り組み】

- ・ 平成21年度オープンの滝沢村I P Uイノベーションセンターへの5企業の入居決定
- ・ 産学官連携事業（岩手大学と共同）によるキャリア教育関連科目「地場産業・企業研究」(総合政策学部：自由聴講科目)の開設及び「キャリアフォーラム2009」の開催
- ・ 外国人留学生4名の経済産業省アジア人材資金構想に係る日本語力習得のための研修への参加 など

#### 【社会人に対するリカレント教育の推進】

- ・ 社会福祉学部における文部科学省採択の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」による地域社会で活動する福祉人材のスキルアップ支援
- ・ 「組込み系高度IT技術者養成プログラム」8講座の開講によるニーズの高い組込みソフトウェア技術者の育成 など

#### 大学の知的資源を活用した地域連携の推進

教員・学生による活動や研究成果など、本学の有する知的資源をもって地域に貢献していくため、地域課題に対応する研究や地域をフィールドとする教育研究活動を推進するとともに、産学連携や地域協働、国際交流等の活動支援を推進しました。

#### 【教員・学生による活動】

- ・ 教員による自治体等の政策形成過程への参画や講演活動の推進
- ・ 教員の研究成果の地域への還元のための「開学10周年記念成果発表会」等開催
- ・ ムック形式の「開学10周年記念研究成果集」の作成
- ・ 「学生ボランティアセンター」設置による学生のボランティア活動の活性化など

#### 【地域課題に対応する研究】

- ・ 「地域づくり研究所」の内部組織として「盛岡市まちづくり研究所」及び「公共政策研究所」の設置
- ・ 大学と自治体、地域づくり団体等との交流の場である「I P U地域づくりプラザ」の設置
- ・ 看護学部における地域の課題に合致した研究テーマについての学部プロジェクト研究としての組織的取り組み
- ・ 盛岡短期大学部における岩手県における生活文化の環境変化に関する研究の開始
- ・ 宮古短期大学部における三陸地域の特性を活かした「公共交通機関を活用した体験型観光」研究 など

#### 【地域をフィールドとする教育研究活動】

- ・ 看護学部「がん看護専門看護師コース」の開設
- ・ 地域課題研究としての「臨床実践における看護技術の根拠を解明するための基礎研究」の臨床現場への還元
- ・ 総合政策学部における国際的な視野に立った卒業論文指導（外国人の研修・技能実習制度に関するテーマ、世界と北上川の舟運の比較検討を通じて岩手の観光政策に役立てようとするテーマなど）
- ・ 宮古短期大学部における1年次入門ゼミ、基礎研究、2年次のフィールド活動での企業や市議会等の見学の実施 など

#### 【産学連携や地域協働、国際交流等】

- ・ 「いわて高等教育機関コンソーシアム」や「いわて未来づくり機構」への参画
- ・ 地域ニーズに対応した有料公開講座として「岩手県地域限定通訳士養成講座」、「I P U情報システム塾」、「管理栄養士国家試験準備講座」の開催による通訳ボランティア等の人材育成 など

#### 少子化時代の学生確保

県立大学として県民の進学需要に応え、将来にわたって意欲ある学生を確保していくため、高校側との対話を基礎として連携を深め、入試制度の改革を検討しました。

#### 【高校との連携】

- ・ 保護者を対象とした進学相談会の開催（延べ6回、84人参加）、入試説明会（延べ3回）や高校訪問（県内52校、県外48校）の機会を捉えた高校の進路担当教員との意見交換
- ・ 全学的に大学説明会、ウインターセッション、スーパーサイエンスハイスクールの実施 など

#### 【入試制度の改革】

- ・ A Oアドミッションポリシーの策定公表、高等学校における推薦入学の学内選考日程に配慮した面談の実施期間の短縮
- ・ A O入試の合格者に対する教員による個別指導、プレゼミナールの実施
- ・ 宮古短期大学部における高校訪問やキャンパス見学会などでの周知、推薦入試の各高等学校からの「推薦枠制度」の改革 など

#### 【大学院の定員充足】

- ・ 大学院の定員確保についての副学長、各研究科長からなる検討会議での課題の共有化、広報の充実 など

#### 学生満足度の向上

本学における直接的な顧客ともいえる学生のパフォーマンスを向上させ、大学全体の活性化を図るため、F D・S D活動を推進するとともに、学生会活動、クラブ・サークル活動、インターンシップ・ボランティア活動の環境整備、学生生活の支援や「居場所」の充実確保等により学生満足度の向上を図りました。

#### 【F D・S D活動の推進】

- ・ 平成21年度からの学部等が行うF D活動支援のための助成制度の創設
- ・ 文部科学省の戦略的産学連携支援事業の採択に伴う来年度以降のF D研修会等の

#### 取組体制の構築

- ・ 「能力開発プラン」に基づいた任期付職員等の能力開発支援の実施
- ・ 任期付職員への勤務評価制度の整備 など

#### 【就職支援の充実】

- ・ 非常勤としていた就職支援専門員の増員・常勤化
- ・ 学生個人毎の相談内容を記載した「就職相談カード」による就職支援センターと各学部の情報共有化の方針決定
- ・ 登録制による卒業生のUターン支援システムの実施 など

#### 【学生会、クラブ・サークル、インターンシップ、ボランティア活動の環境整備】

- ・ 弓道場の平成21年6月完成に向けての整備契約
- ・ 「学生ボランティアセンター」の設置による学生のボランティア活動の一層の活性化 など

#### 【学生生活の支援】

- ・ 経済的理由で卒業が困難な学生を対象にした緊急貸付制度の導入
- ・ 金融機関との提携教育ローンの創設、常勤カウンセラーの配置による疾病の早期発見・早期対応 など

#### 部局を超えた連携強化

本学が擁する学部・短期大学部の個性を活かしつつ、将来構想を視座に据え、本部や共通教育センターを含め、部局を超えた連携による教育活動やグローバルC O Eなどに向けた研究活動を推進するとともに、開学10周年記念事業をはじめとするプロジェクトや事業の実施を通じて、大学の一体感を醸成し、大学全体の活性化を図りました。

#### 【部局を超えた教育研究活動】

- ・ 学術研究費重点枠「課題研究」に新たに採択した「地域専門職への遠隔教育システム研究」における看護、社会福祉、ソフトウェア情報、総合政策の学部横断的な体制での研究の推進

#### 【大学の一体感の醸成】

- ・ 次期中期計画の策定に向けた運営体制、予算、志願者の確保、学生への経済的支援策、就職対策等各般にわたる経営戦略の検討・平成21年度計画及び予算等への反映
- ・ 学部長等会議において各部局が運営方針を報告・全学共有
- ・ 学生参加型広報誌へのリニューアル など

## (2) 全体評価に規定する事項

### 理事長及び学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取り組み

#### 【運営方針等】

- ・ 学部長等会議における各部局運営方針の報告、全学共有
- ・ 各部局と執行部との打合せの実施による進捗状況の把握、平成21年度計画策定に向けた全学的な業務の調整

#### 【認証評価】

- ・ 認証評価の取組みで把握された課題についての平成21年度全体計画への反映

#### 【学術研究費重点枠】

- ・ 学術研究費重点枠の「課題研究」の新設、学長、副学長等審査による重点配分

#### 【予算等への反映】

- ・ 次期中期計画の策定に向けた運営体制、予算、志願者の確保、学生への経済的支援策、就職対策等各般にわたる経営戦略の検討、平成21年度計画及び予算等への反映

#### 【大学の運営体制等の見直し】

- ・ 「大学改革推進本部」の入試改革・高大連携業務の「教育・学生支援本部」への移管による一貫した入試業務の取組みの促進
- ・ 「経営企画室」への大学運営の企画業務の移管、室長の専任化などによる大学運営の企画機能の強化

### 県民や社会に対する説明責任を重視した社会に開かれた大学運営を目指した取り組み

#### 【広報】

- ・ 大学広報誌の学生参加型・ホームページ運動型への移行
- ・ 開学10周年記念誌、テレビ番組、ラジオ番組の制作（本学のこれまでの取り組み、次の10年に向けたビジョンのPR）

#### 【自己点検・評価】

- ・ 平成19年度計画実績報告書に係る自己点検・評価報告書のホームページ上での公表
- ・ 認証評価結果のホームページ上での公表

#### 【高大連携】

- ・ 大学説明会、ウインターセッション、スーパーサイエンスハイスクールの実施
- ・ 保護者を対象とした進学相談会の開催（延べ6回、84人）
- ・ 入試説明会（延べ3回）や高校訪問（県内52校、県外48校）の機会を捉えた高校の進路担当教員との意見交換

#### 【研究成果の発表等】

- ・ 「開学10周年記念成果発表会」の開催
- ・ 内閣府主催「第7回産学官連携推進会議」等県内外展示会における研究成果の出版
- ・ ムック形式の「開学10周年記念研究成果集」の作成

### 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組み、創意工夫

#### 【全学的取組み】

- ・ A Oアドミッションポリシーの策定公表
- ・ 面談の実施期間の短縮、合格発表の前倒し（高等学校における推薦入学の学内選考日程に配慮）
- ・ 経済的理由で卒業が困難な学生を対象とした緊急貸付制度の導入
- ・ 「地域づくり研究所」の内部組織として「盛岡市まちづくり研究所」、「公共政策研究所」の設置
- ・ 大学と自治体、地域づくり団体等との交流の場である「I P U地域づくりプラザ」の設置
- ・ 「学生ボランティアセンター」の設置による学生のボランティア活動の一層の活性化
- ・ 「いわて高等教育機関コンソーシアム」、「いわて未来づくり機構」への参画による共同事業の推進

#### 【看護学部】

- ・ がん看護専門看護師コースの開設
- ・ 地域課題研究としての「臨床実践における看護技術の根拠を解明するための基礎研究」の実施、臨床現場への還元

#### 【社会福祉学部】

- ・ 文部科学省採択の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」による地域社会で活動する福祉人材のスキルアップの支援

#### 【ソフトウェア情報学部】

- ・ 主体的課題設定型学習の教育効果を検証
- ・ 講座間学生情報共有システムの見直し
- ・ 授業情報共有システムの試用開始

#### 【総合政策学部】

- ・ 「地場産業・企業研究」を自由科目からキャリア教育関連科目の選択科目に移行
- ・ 研究科におけるアイーナキャンパスに学ぶ院生に滝沢キャンパスの合同研究室の利用開放

#### 【盛岡短期大学部】

- ・ 岩手県における生活文化の環境変化に関する研究の開始

#### 【宮古短期大学部】

- ・ 1年次入門ゼミ、基礎研究、2年次フィールド活動での企業や市議会等の見学
- ・ 学長講義、地域総合講座等における地域課題を学ぶ機会の設定

### 大学改革を推進させる取組み

#### 【認証評価（再掲）】

- ・ 認証評価の取組みで把握された課題についての平成21年度全体計画への反映

#### 【暫定評価】

- ・ 岩手県地方独立行政法人評価委員会と協議・調整を図りながら平成21年度の暫定評価の実施方法等の検討

#### 【教員人事制度改革】

- ・ 人事制度改革本部に「評価制度検討チーム」の設置による評価を処遇に反映させる仕組み等についての検討

#### 【国際交流】

- ・ 国際交流協定締結校である大連交通大学から5名、韓国又松大学から2名の特別聴講学生の受入れ
- ・ 海外研究者等の招聘による国際ソフトウェア・シンポジウムやアジア地域開発・環境フォーラムの開催
- ・ 単位認定制度を設けた短期海外語学研修の制度化と岩手県立大学後援会による経費助成制度の設置

#### 【教員によるFD活動】

- ・ 「教務・FD推進専門委員会」による学部等が行うFD活動を支援するための助成制度の平成21年度からの実施決定
- ・ 文部科学省の戦略的連携支援事業の採択による来年度以降のFD研修会等に係る取組体制の構築

#### 【イノベーションセンター】

- ・ 平成21年度オープンの滝沢村IPUIノベーションセンターへの5企業、7室分の入居決定

#### 業務運営等の改善及び財務状況の改善に関する取組み

##### 【事務局体制の見直し（再掲）】

- ・ 「経営企画室」への大学運営の企画業務の移管、室長の専任化などによる大学運営の企画機能の強化

##### 【財務状況の改善】

- ・ 光熱水費等の設備維持管理の節減など一般管理費の抑制による資金運用の最適化

##### 【外部からの研究資金の導入】

- ・ 各種産学交流会、展示会への参加、リエゾン活動などによる研究成果や技術の移転・還元、外部からの研究資金の導入（平成21年度共同研究59件（公募型地域課題研究31件を含む）、受託研究13件、奨学寄附金7件、計79件の研究等）
- ・ 科研費獲得経験豊富な教員による説明会の開催、学部ごとの科研費獲得経験者をインストラクターとする申請書類のブラッシュアップの実施（平成20年度科研費の採択率は全国第15位の31.2%（四大））

#### 自己点検・評価及び情報公開に関する取組み

##### 【自己点検・評価（再掲）】

- ・ 平成19年度計画実績報告書に係る自己点検・評価報告書の岩手県地方独立行政法人評価委員会への提出、ホームページ上での公表
- ・ 認証評価結果のホームページ上での公表

##### 【入学者アンケート等】

- ・ 新入学者アンケートの実施（4月）、その結果の大学経営評価指標データとして

集積、ホームページでの公表

- ・ 在学生、卒業生の就職先企業及び教職員に対するアンケート調査についての平成28年度までの実施計画の策定

##### 【広報（再掲）】

- ・ 大学広報誌の学生参加型・ホームページ連動型への移行
- ・ 開学10周年記念誌、テレビ番組、ラジオ番組の制作（本学のこれまでの取り組み、次の10年に向けたビジョンのPR）

#### その他

##### 【ハラスメント防止】

- ・ 学生、教員に対する新入生オリエンテーション、在学生ガイダンス、新採用教職員オリエンテーションなどでの制度周知
- ・ ハラスメントに関する意識調査（4月）の実施
- ・ ハラスメント防止対策ホームページの作成

##### 【禁煙】

- ・ 「キャンパスクリーン作戦」の実施などによる敷地内全面禁煙施行後のキャンパスの実態調査、学生・教員への周知徹底

##### 【メンタルヘルス】

- ・ 教職員に対するメンタルヘルスセミナーの開催、アンケート調査の実施

##### 【施設の利用等】

- ・ 学外者向けの施設利用情報のホームページなどによる周知（10月から有料化）
- ・ 学生が運営主体となるボランティアセンターの設置（4月、学生ホール棟）
- ・ 弓道場の平成21年6月完成に向けての契約

#### （3）全体的な計画の進行状況

岩手県立大学は、平成20事業年度においては、年度計画として提示した各般にわたる活動を展開した結果、232項目中210項目（90.5%、前年度86.1%）において計画を着実に遂行したほか、平成20年度以降の具体的な実施を見込む取組みも含めて、222項目（95.7%、前年度97.6%）は概ね順調に実行し、一定の成果を達成することができました。

一方、10項目（4.3%、前年度2.4%）については、新たな課題の認識などもあって十分な実行に至りませんでした。平成21年度以降改めて実施計画を検討のうえ取り組みます。

### 3 項目別の状況

区分	自己評価		主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘要 (主な運営データ等)																																																																																																		
	区分	項目数		割合%	入試の状況																																																																																																	
大学の教育・研究などの質の向上に関する目標を達成するためにとる措置	A	168	91.8	<b>全学的な取り組み</b> <b>他学部専門教育科目の卒業要件単位化の検討</b> 「教務・FD推進専門委員会」において、他学部専門教育の履修促進（他学部専門教育科目の卒業要件単位としての取扱い）について検討を行った結果、既に実施している看護学部及び社会福祉学部に加えて、新たに総合政策学部において、実施に向けた検討に入ることになりました。 <b>心理相談員の常勤化</b> これまでの取り組みに加え、平成20年度において、学生相談員と各学部の学生担当教員との情報交換会等を開催するとともに、これまで非常勤職員であった心理相談員1名と看護師1名をそれぞれ平成21年4月より常勤職員とすることなど、健康サポートセンターの支援体制の充実を図ったことから、生活相談については所期の目的を達成しました。 <b>学生緊急貸付制度の導入</b> 経済的理由で卒業が困難な学生を対象とした緊急貸付制度を導入しました。また、金融機関との提携教育ローンを創設し、経済的に困難な学生の支援向上に努めました。 <b>地域貢献を目指した研究機能の充実</b> 「戦略的地域再生研究機構（プロジェクト研究所）」の1つである「地域づくり研究所」の内部組織として、「盛岡市まちづくり研究所」と「公共政策研究所」を新たに設置するとともに、大学と自治体、地域づくり団体等との交流の場である「IPU地域づくりプラザ」を設置しました。 特に「盛岡市まちづくり研究所」では盛岡市から派遣された共同研究員2名が、研究成果を地域に還元すべく、市の将来計画策定のための基礎調査や地域づくりの実証的な調査等を実施しています。 また、地域課題研究は1件、公募型地域課題研究は16件、地域貢献調査活動研究は5件、それぞれ平成20年度に新規採択しました。 <b>研究成果の社会への還元</b> 開学10周年記念研究成果発表会をアイーナで開催しました。発表会では、重点研究の5大プロジェクト研究など地域貢献性の高い研究7テーマを口頭発表するとともに、戦略的地域再生研究所の研究など9テーマについてポスターセッションを行い、学内外含めて171名が参加しました。内閣府等主催の「第7回産学官連携推進会議」をはじめ、県内外の展示会に研究成果を出展するとともに、読みやすいムック形式で編纂した「開学10周年記念研究成果集」を作成しました。 <b>研究倫理向上への取組み</b> 研究倫理審査開始に向けた対象研究や運用ルール等を検討するため各学部の委員からなるワーキンググループを設置し、対象研究や対象動物などの内容を検討し、研究倫理審査規程を改正するとともに研究倫理審査実施要領を定め、平成21年1月から研究倫理審査の申請を受け付けることとしました。 研究活動上の不正行為防止のため、研究費使用のルール等を解説した研究費マニュアルを作成するとともに学内HPで公開しました。 研究費の使用実態等に関する学内アンケートを実施し、これらをもとに不正行為防止計画を策定しました。 <b>地域連携の推進</b> 外部資金獲得、技術移転、事業化支援、地域づくり支援などを推進するため、外部の専門家を5名連携支援アドバイザーに委嘱するとともに、今年度からリエゾン担当教員を週30時間の非常勤職員から週40時間の任期付教員に任命替えし、体制を強化し、積極的に学内外の研究連携を図りました。 自治体等の6団体と連携協定を締結しており、協定に基き共同研究や研究成果の自治体施策への適用を進めるとともに、協定団体と定期的に連絡会議を開催しました。 平成21年オープン予定の滝沢村IPUイノベーションセンターへのIT企業誘致活動として、本学担当教員による企業訪問活動等を行い、誘致につなげました。なお、滝沢村による公募に対し、5企業から7室分の入居申請があり、審査の結果、申請どおり入居企業が決定しました。	入試の状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">県立大学</td> <td rowspan="3">学部</td> <td>入学者数</td> <td>457</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>1,530</td> <td>2,593</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>3.5</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院</td> <td>入学者数</td> <td>71</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>86</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>0.5</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">盛岡短期大学部</td> <td rowspan="3">学部</td> <td>入学者数</td> <td>105</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>278</td> <td>339</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>2.8</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院</td> <td>入学者数</td> <td>233</td> <td>299</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>233</td> <td>299</td> </tr> <tr> <td>志願倍率</td> <td>1.6</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">宮古短期大学部</td> <td rowspan="2">学部</td> <td>入学者数</td> <td>106</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>154</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学院</td> <td>入学者数</td> <td>143</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>143</td> <td>165</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H20.5.1 運営データ、人・%)</p> <p>「本学が第一希望」の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県大</td> <td>第一希望</td> <td>81.7</td> <td>81.6</td> </tr> <tr> <td>第二希望</td> <td>10.7</td> <td>10.4</td> </tr> <tr> <td>第三希望以下</td> <td>7.1</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛短</td> <td>第一希望</td> <td>72.0</td> <td>58.8</td> </tr> <tr> <td>第二希望</td> <td>21.0</td> <td>30.4</td> </tr> <tr> <td>第三希望以下</td> <td>6.0</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮短</td> <td>第一希望</td> <td>74.4</td> <td>69.5</td> </tr> <tr> <td>第二希望</td> <td>20.4</td> <td>18.6</td> </tr> <tr> <td>第三希望以下</td> <td>5.1</td> <td>11.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(新入生アンケート、%)</p>			区分		H19	H20	県立大学	学部	入学者数	457	450	志願者数	1,530	2,593	志願倍率	3.5	5.9	大学院	入学者数	71	61	志願者数	86	86	志願倍率	0.5	0.8	盛岡短期大学部	学部	入学者数	105	105	志願者数	278	339	志願倍率	2.8	3.4	大学院	入学者数	233	299	志願者数	233	299	志願倍率	1.6	2.0	宮古短期大学部	学部	入学者数	106	107	志願者数	154	173	大学院	入学者数	143	165	志願者数	143	165	区分		H19	H20	県大	第一希望	81.7	81.6	第二希望	10.7	10.4	第三希望以下	7.1	8.0	盛短	第一希望	72.0	58.8	第二希望	21.0	30.4	第三希望以下	6.0	10.8	宮短	第一希望	74.4	69.5	第二希望	20.4	18.6	第三希望以下	5.1	11.9
	区分		H19		H20																																																																																																	
	県立大学	学部	入学者数		457	450																																																																																																
			志願者数		1,530	2,593																																																																																																
			志願倍率		3.5	5.9																																																																																																
大学院		入学者数	71	61																																																																																																		
		志願者数	86	86																																																																																																		
		志願倍率	0.5	0.8																																																																																																		
盛岡短期大学部	学部	入学者数	105	105																																																																																																		
		志願者数	278	339																																																																																																		
		志願倍率	2.8	3.4																																																																																																		
	大学院	入学者数	233	299																																																																																																		
		志願者数	233	299																																																																																																		
		志願倍率	1.6	2.0																																																																																																		
宮古短期大学部	学部	入学者数	106	107																																																																																																		
		志願者数	154	173																																																																																																		
	大学院	入学者数	143	165																																																																																																		
		志願者数	143	165																																																																																																		
区分		H19	H20																																																																																																			
県大	第一希望	81.7	81.6																																																																																																			
	第二希望	10.7	10.4																																																																																																			
	第三希望以下	7.1	8.0																																																																																																			
盛短	第一希望	72.0	58.8																																																																																																			
	第二希望	21.0	30.4																																																																																																			
	第三希望以下	6.0	10.8																																																																																																			
宮短	第一希望	74.4	69.5																																																																																																			
	第二希望	20.4	18.6																																																																																																			
	第三希望以下	5.1	11.9																																																																																																			
B	8	4.4																																																																																																				
C	7	3.8																																																																																																				
D	0	0.0																																																																																																				
計	183	100.0																																																																																																				

区分	自己評価		主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘要 (主な運営データ等)																																																								
	区分	項目数		割合%	学生定員充足状況																																																							
			<p><b>各学部等における特色ある取り組み</b>  <b>【看護学部、研究科】</b>  <b>基礎能力及び看護実践能力強化のためのカリキュラム構築</b>            平成20年8月に文部科学省にカリキュラム変更の申請を行い、平成21年3月に認可を受けました。            改訂の趣旨は 看護実践能力を強化すること、看護の対象者を終末期や障がいを含めて生活者として幅広く捉えること、チーム医療の中で看護の果たすべき役割を修得させることです。            具体的な改訂内容は、県内の20箇所の訪問看護ステーションとの協働による「在宅ケア論」と「在宅ケア論」の再構築、「エンドオブライフケア論」と「災害看護論」を選択科目から必修科目に変更、単位外教育として行っていた海外研修と卒業前技術演習をそれぞれ「国際看護論演習」と卒業時の到達目標を見据えた「看護技術統合演習」として単位化、等です。これらの変更により生涯学習につながる基礎能力と卒業時の到達目標を見据えた看護実践能力の強化につながる教育内容の構築ができました。併せて学生や教員の教育評価結果を踏まえ、早期からの専門教育の導入、過密な時間割の調整、効果的な科目の配置など改善を行い、中期計画の目標は達成できました。</p> <p><b>卒業研究を充実させる取組み</b>            教員個々の指導のみならず看護研究法での講義や卒業研究オリエンテーションにおいても研究活動や学外へ成果を公表することの意義と責務を強調し説明しました。その結果、卒業研究の成果を学内では学生全員が発表し、さらに卒業後には5名の学生が岩手看護学会や看護関連学会で発表を行うことができました。昨年までの発表件数が0～1件であった状況と比べると大きな成果といえます。このように研究推進能力を育成するための卒業研究の充実を図っていることから、中期計画は達成することができました。</p> <p><b>がん看護専門看護師コースの開設</b>            次年度に「がん看護専門看護師養成コース」として日本看護系大学協議会の認定を受けるための準備段階として、がん看護専門看護師のコースを開設し、その1年目の運営を行いました。            コース開設にあたり、岩手医科大学のがん専門医や実践現場で活躍する3名の専門看護師等との協働での教育展開を行うことで、次年度以降の実習教育のフィールドとして協力を受けることが可能になるとともに、より高度な看護専門能力の育成につながりました。</p> <p><b>【社会福祉学部、研究科】</b>  <b>入試制度の見直し</b>            入試制度の見直しに向けて各方面からの情報収集を行い検討を行いました。その結果、専門高校・総合学科特別選抜の見直しを行うとともに、リカレント教育の裾野を広げることなどを目的とした、社会人編入の入試区分を新設するなどの入試制度改革を行い、平成22年度以降に反映させることとしました。</p> <p><b>質の高い履修のための資格課程履修制限制度の導入</b>            将来構想委員会において、社会福祉士、介護福祉士を含む、学部が設置する全ての資格課程を視野に入れて今後の学部教育の守備範囲等について検討を進めました。それに基づき、資格課程の履修を学生1人につき2つまでと制限し、より質の高い履修を促す制度を導入しました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県立 大学</td> <td>学部</td> <td>定員</td> <td>1,840</td> <td>1,840</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数</td> <td>1,955</td> <td>1,953</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率</td> <td>106.3</td> <td>106.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛岡 短期 大学部</td> <td>大学院</td> <td>定員</td> <td>234</td> <td>239</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数</td> <td>186</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率</td> <td>79.5</td> <td>72.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮古 短期 大学部</td> <td>盛岡短期大学部</td> <td>定員</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数</td> <td>224</td> <td>216</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率</td> <td>112.0</td> <td>108.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">盛岡 短期 大学部</td> <td>宮古短期大学部</td> <td>定員</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在籍数</td> <td>231</td> <td>231</td> </tr> <tr> <td></td> <td>充足率</td> <td>115.5</td> <td>115.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H20.5.1 運営データ、人・%)</p>	区分		H19	H20	県立 大学	学部	定員	1,840	1,840		在籍数	1,955	1,953		充足率	106.3	106.1	盛岡 短期 大学部	大学院	定員	234	239		在籍数	186	172		充足率	79.5	72.0	宮古 短期 大学部	盛岡短期大学部	定員	200	200		在籍数	224	216		充足率	112.0	108.0	盛岡 短期 大学部	宮古短期大学部	定員	200	200		在籍数	231	231		充足率	115.5	115.5
区分		H19	H20																																																									
県立 大学	学部	定員	1,840	1,840																																																								
		在籍数	1,955	1,953																																																								
		充足率	106.3	106.1																																																								
盛岡 短期 大学部	大学院	定員	234	239																																																								
		在籍数	186	172																																																								
		充足率	79.5	72.0																																																								
宮古 短期 大学部	盛岡短期大学部	定員	200	200																																																								
		在籍数	224	216																																																								
		充足率	112.0	108.0																																																								
盛岡 短期 大学部	宮古短期大学部	定員	200	200																																																								
		在籍数	231	231																																																								
		充足率	115.5	115.5																																																								



区分	自己評価		主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘要 (主な運営データ等)																																																																			
	区分	項目数		割合%	就職の状況																																																																		
			<p><b>高齢者安否確認システム等の地域の福祉課題への対応</b> 宮古地区については、宮古市及び宮古市社会福祉協議会と連携して一般中高年者、自治会長を対象とする地域福祉推進に向けた意識調査を実施し、報告書を作成しました。岩手県社会福祉協議会との協働で川井村で進めてきた高齢者の能動的安否確認システムに関する研究は、「高齢者の予防型見守り安否確認システムモデル事業」として、盛岡市、久慈市、二戸市のほか青森県十和田市も参加することになり、対象が拡大してきています。</p> <p><b>地域社会の福祉人材のスキルアップ支援</b> 文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」として採択されている本学の「コミュニティカウンセラー教育・研修プログラム」を平成20年4月から本格実施しました。地域で相談業務を担っている福祉人材向けに基礎コースと応用コースを設け、本学で開講している科目を受講できるようにしているほか、遠隔地からも参加できるようアイーナキャンパスを利用して土曜日も開講しています。 平成20年度は、基礎コース5名、応用コース9名の修了生を送り出すことができました。また、受講生のピアヘルパー試験においても、100%の合格率でした。</p> <p><b>【ソフトウェア情報学部、研究科】</b> <b>多様な入試制度の充実</b> 入試センター試験利用枠や後期日程枠を設ける変更を行った平成21年度の入試については、高校訪問や学部ホームページ等を通じて県内外の高校に周知したうえで実施しました。このことにより、多様な入試方式をさらに充実させました。</p> <p><b>地域社会のニーズと学部のシーズの交流</b> 今年度の第4回いわて情報産業シンポジウムは、岩手県の情報サービス産業のほかに県内メーカー等も参加いただくことで(計20社)より活性化した形で開催できました。(参加者-今年度:140名、昨年度:100名) また、首都圏の大手企業26社が参加した「首都圏企業就職フォーラム」、及び主に仙台の企業15社が参加した「仙台企業就職フォーラム」を通じて、参加企業と活発な意見交換を行いました。両フォーラムは参加学生から高い満足度を得ました。(企業フォーラムの満足度-「首都圏」:99%、「仙台」:91%) なお、これらの取組により地域のニーズと学部のシーズの実践的交流を図ることができました。</p> <p><b>【総合政策学部、研究科】</b> <b>カリキュラムの改訂及び履修登録単位数の上限設定</b> カリキュラム改訂は、平成21年1月の教授会において正式決定し、それに伴い学則等の所要の整備を行うとともに、新カリキュラムに対応したシラバスを作成しました。 なお、本学部の教育目標に、より適応するカリキュラムを策定したことに加え、履修登録単位数の上限を設定することで教育効果の向上を図っていることから中期計画を達成しました。</p> <p><b>キャリア教育を充実する取組み</b> キャリア教育において、地元の企業家等を講師とした講義でその実体験を直接聴くことは、実学実践を実感できることに加え、地元企業への関心を高める効果も伴うことが学生のレポート等により確認できました。このことから、平成21年度から「地場産業・企業研究」は自由聴講科目から、選択科目に移行させて卒業単位に反映させることとしました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">県立大学</td> <td>県内就職者数</td> <td>121</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>32.6</td> <td>40.4</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>250</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>67.4</td> <td>59.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計(就職者数)</td> <td>371</td> <td>349</td> </tr> <tr> <td colspan="2">就職率</td> <td>96.9</td> <td>96.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">盛岡短大</td> <td>県内就職者数</td> <td>48</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>73.8</td> <td>61.0</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>17</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>26.2</td> <td>39.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計(就職者数)</td> <td>65</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td colspan="2">就職率</td> <td>94.2</td> <td>92.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">宮古短大</td> <td>県内就職者数</td> <td>56</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>70.0</td> <td>65.7</td> </tr> <tr> <td>県外就職者数</td> <td>30</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>30.0</td> <td>34.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計(就職者数)</td> <td>86</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td colspan="2">就職率</td> <td>95.6</td> <td>90.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(H20.5.1 運営データ、人・%)</p>	区分		H19	H20	県立大学	県内就職者数	121	141	割合	32.6	40.4	県外就職者数	250	208	割合	67.4	59.6	計(就職者数)		371	349	就職率		96.9	96.9	盛岡短大	県内就職者数	48	36	割合	73.8	61.0	県外就職者数	17	23	割合	26.2	39.0	計(就職者数)		65	59	就職率		94.2	92.2	宮古短大	県内就職者数	56	44	割合	70.0	65.7	県外就職者数	30	23	割合	30.0	34.3	計(就職者数)		86	67	就職率		95.6	90.5
区分		H19	H20																																																																				
県立大学	県内就職者数	121	141																																																																				
	割合	32.6	40.4																																																																				
	県外就職者数	250	208																																																																				
	割合	67.4	59.6																																																																				
計(就職者数)		371	349																																																																				
就職率		96.9	96.9																																																																				
盛岡短大	県内就職者数	48	36																																																																				
	割合	73.8	61.0																																																																				
	県外就職者数	17	23																																																																				
	割合	26.2	39.0																																																																				
計(就職者数)		65	59																																																																				
就職率		94.2	92.2																																																																				
宮古短大	県内就職者数	56	44																																																																				
	割合	70.0	65.7																																																																				
	県外就職者数	30	23																																																																				
	割合	30.0	34.3																																																																				
計(就職者数)		86	67																																																																				
就職率		95.6	90.5																																																																				

区分	自己評価		主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘要 (主な運営データ等)																																												
	区分	項目数		割合%																																												
			<p><b>【盛岡短期大学部】</b></p> <p><b>少人数教育の更なる推進</b> 生活科学科「英語」「英語」の授業では、平成19年度に引き続き専攻別のクラス編成としました。生活科学専攻では、日本語にはない英語特有の表現を理解させるとともに、食物栄養学専攻では、語学学習室を活用してリスニング力の向上に努めて、実践的な英語を身につけられる授業内容としました。国際文化学科「日本語表現論」では、少人数クラスを行うとともに同一教科書を採用することで学生の反応を把握しやすくなり、展開、進度などを教員間で話し合いながら授業展開できるようになりました。また課題提示の回数を増やすことができたほか、新聞投稿プログラムに対する添削などの対応が充実しました。</p> <p>また、「英語表現B」「国際文化理解演習(米国研修)」においては、リーディングマラソン及びリスニングマラソンを補助授業として位置づけて、英語を英語として読み、聞く訓練を課した上で、その内容について教員が英語で質問することによって、学生の英語運用能力を高める手法を検討しました。</p> <p>この補助授業(週2回実施)には、毎回平均10名程度の学生が参加し、TAが担当教員に学生の進捗状況を伝えるとともに、教材の選択について協議することによって、学生の英語に対する関心を喚起しました。その結果、TOEIC-BRIDGEテストにおいて、前年度に比較して約40%の学生の成績が10点以上アップしました。</p> <p>「情報科学概論」「情報処理演習」については、パワーポイント等を活用した卒業研究発表会を通してTAの配置による学習効果を確認しました。</p> <p>なお、少人数クラスでの情報リテラシー教育と語学教育については、より少人数のクラス編成やTA等を配置した授業改善の取り組み等、必要な改善をしながら一層の推進を行ってきたことから、中期計画を達成しました。</p> <p><b>出前授業、入学前教育の充実</b> アンケート調査の実施によって得られた結果を総括し、それを基に在学生による大学生活の紹介を取り入れるなど、入学前セミナーのプログラムを一部改善し、実施しました。これまでの取組の成果を含めて、出前授業、入学前教育について入学後教育へのスムーズな移行を図る仕組みが整ったので、中期計画を達成しました。</p> <p><b>地域の生活文化にかかわる研究</b> 地域の生活文化にかかわる研究を新たにスタートさせました。旧盛岡短期大学で50年前に実施した生活調査報告書をもとに、現代型環境変化に対する地域課題を明らかにしながら、50年間の変容を同一地区で実施しています。今年度は西根地区、渋民地区を対象とした基礎調査を実施中です。学部プロジェクト研究の他に4年間の地域課題研究としての受託研究報告書「一関市蔵美町本寺地区の民俗」がまとまり刊行されました。</p> <p><b>【宮古短期大学部】</b></p> <p><b>アドミッションポリシーの明確化と入試制度の変更</b> アドミッションポリシーを策定し、キャンパス見学会や高校訪問などの際に、その周知を図りました。</p> <p>加えて、推薦入試について、各高等学校からの「推薦枠制度」の改革(「推薦4名・特別推薦2名の計6名」から「推薦・特別推薦の両方を併せて6名」への変更)も行い、向学心のある学生の選抜に取り組みました。</p> <p><b>地域社会のニーズを踏まえた教育課程の展開</b> 2年次のフィールド活動や1年次入門ゼミ、基礎研究で企業や市議会等の見学を行いました。さらには、従来から実施している学長講義、地域総合講座等においても地域の現状、様々な課題について学ぶ機会を設けました。このことにより、社会の実情に即した教育課程がうまく展開し、特に学生の製造業に対する意識改革となりました。</p>	<p>産学官連携の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同研究数</td> <td>52</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>受託研究数</td> <td>19</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>71</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table> <p>(運営データ、件)</p> <p>地域貢献の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">公開講座</td> <td>開講講座数</td> <td>60</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>3,661</td> <td>3,409</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">施設の学外利用者</td> <td>図書館</td> <td>10,105</td> <td>7,709</td> </tr> <tr> <td>体育施設等</td> <td>24,774</td> <td>31,382</td> </tr> <tr> <td>アイーナキャンパス</td> <td>11,855</td> <td>16,977</td> </tr> <tr> <td>審議会委員等への就任、講師派遣数</td> <td></td> <td>712</td> <td>994</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うち</td> <td>行政機関</td> <td>332</td> <td>563</td> </tr> <tr> <td>非常勤講師</td> <td>129</td> <td>133</td> </tr> </tbody> </table> <p>(運営データ、講座・人)</p>	区分	H19	H20	共同研究数	52	66	受託研究数	19	23	合計	71	89	区分		H19	H20	公開講座	開講講座数	60	51	受講者数	3,661	3,409	施設の学外利用者	図書館	10,105	7,709	体育施設等	24,774	31,382	アイーナキャンパス	11,855	16,977	審議会委員等への就任、講師派遣数		712	994	うち	行政機関	332	563	非常勤講師	129	133
区分	H19	H20																																														
共同研究数	52	66																																														
受託研究数	19	23																																														
合計	71	89																																														
区分		H19	H20																																													
公開講座	開講講座数	60	51																																													
	受講者数	3,661	3,409																																													
施設の学外利用者	図書館	10,105	7,709																																													
	体育施設等	24,774	31,382																																													
	アイーナキャンパス	11,855	16,977																																													
審議会委員等への就任、講師派遣数		712	994																																													
うち	行政機関	332	563																																													
	非常勤講師	129	133																																													

区 分	自己評価			主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘 要 (主な運営データ等)																		
	区分	項目数	割合%																				
				<b>ゼミによる少人数教育の一層の推進</b> 1年後期ゼミ「基礎研究」を開設したことにより、宮古短期大学部での2年間のゼミ一貫体制を確立しました。このことにより、学生に対する教育、生活支援、進路指導等をきめ細かく行えるようになり、少人数教育を一層推進しました。 また、学外者に向けた全開講科目を対象とした授業公開や教員相互間の授業聴講などの授業改善の取り組みを継続的に行っており、教育の透明性と質の向上に努める仕組みが整いました。以上のことから、これまでの取り組みにより中期計画は達成しました。																			
業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとる措置	A	15	93.8	<b>大学運営へ外部や学生の意見を反映させるための取り組み</b> 4月に新入学者アンケート実施し、その結果を大学経営評価指標のデータとして集積しました。また、その結果をホームページで学内外に公表したほか、入試制度の検討等、大学運営の意思決定に活用しました。 在学生、卒業生の就職先企業及び教職員に対するアンケート調査については、平成28年度までの実施計画を策定しました。 計画の策定により、広く大学に対する意見を把握する仕組みができ、中期目標の暫定評価や次期中期目標の策定、認証評価の改善報告及び次期受審等に活用することが可能となりました。																			
	B	1	6.2																				
	C	0	0.0																				
	D	0	0.0																				
	計	16	100.0																				
財務内容の改善に関する目標を達成するためにとる措置	A	8	88.9	<b>競争的外部資金獲得への取り組み</b> 科学研究費補助金をはじめ、各種の競争的外部資金についての学内説明会を開催するとともに、助成情報を学内ホームページ及びグループウェアに掲載し、周知を図りました。 科研費については、獲得経験豊富な教員による申請書作成説明会を開催するとともに、学部ごとに科研費獲得経験者をインストラクターとする申請書類のブラッシュアップを行いました。これらの取り組みの結果、平成20年度科研費の採択率は全国第15位の31.2%(四大)となりました。  <b>エネルギー使用量の削減</b> 省エネ法に基づく対前年原油換算エネルギー使用量の1%削減は達成しました。(2.8%削減)  <b>大学施設の有効活用</b> 大学施設の有効活用のため、ホームページなどにより周知したうえで、一般県民へ施設を開放し、体育施設についての有料化を実施しました。 なお、施設の有効活用について、制度が整ったことから中期計画を達成しました。	外部研究資金の獲得状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部研究資金受入</td> <td>件数</td> <td>127</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>165,929</td> <td>143,141</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">うち 科研費</td> <td>件数</td> <td>39</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>57,700</td> <td>79,644</td> </tr> </tbody> </table> (運営データ、件・千円)	区分		H19	H20	外部研究資金受入	件数	127	116	金額	165,929	143,141	うち 科研費	件数	39	65	金額	57,700	79,644
	区分		H19			H20																	
	外部研究資金受入	件数	127			116																	
		金額	165,929			143,141																	
	うち 科研費	件数	39			65																	
金額		57,700	79,644																				
B	1	11.1																					
C	0	0.0																					
D	0	0.0																					
計	9	100.0																					
自己点検・評価・改善及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとる措置	A	7	77.8	<b>認証評価における適合認定</b> 平成21年3月に(財)大学基準協会による認証評価の結果、岩手県立大学、盛岡短期大学部、宮古短期大学部ともに、同協会の大学基準に適合していると認定されました。 また、評価において改善を指摘された事項については速やかに対応を検討し、学則変更や平成21年度計画への反映など、評価結果を改善の取り組みにフィードバックしました。  <b>10周年を契機とした広報活動の展開</b> 大学広報誌を見直し、学生参加型広報誌にリニューアルすることとしました。なお、新たに「(仮称)大学年報」を作成し、大学の基本情報の説明責任を果たす体制とし、いずれもホームページと運動型とすることにより有効的な情報発信をする体制としました。 また、開学10周年記念事業においては、10周年記念誌、テレビ番組、ラジオ番組を制作し大学のこれまでの取り組みや、次の10年に向けたビジョンをPRしました。同様に学部の10周年記念広報も支援することにより、効率的なPRをすることができました。																			
	B	1	11.1																				
	C	1	11.1																				
	D	0	0.0																				
	計	9	100.0																				

区 分	自己評価			主なA評価項目 (項目別の特記事項)	摘 要 (主な運営データ等)
	区分	項目数	割合%		
施設設備の整備、安全管理等の目標を達成するためにとる措置	A	11	91.7		
	B	0	0.0		
	C	1	8.3		
	D	0	0.0		
	計	12	100.0		
予算、収支計画及び資金計画 短期借入金の限度額 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 剰余金の使途 岩手県地方独立行政法人法施行細則で定める業務運営に関する事項	A	1	33.3		
	B	1	33.3		
	C	1	33.3		
	D	0	0.0		
	計	3	100.0		
合 計	A	210	90.5		
	B	12	5.2		
	C	10	4.3		
	D	0	0.0		
	計	232	100.0		